

三保通信

19.11.1

〒424-0401

(株)三保製薬研究所
静岡市清水区中河内一五一三
☎054-396-3321

花見久太郎も、「飢駆我」について

ではちよつと知っている。(奄美の画家・田中一村)の言葉である。「飢え、我を駆る・飢えをバネに、生命のギリギリのところ、自らの芸術を完成させたい…」(アダンの画帖田中一村伝・南日本新聞社編)。

一村さんも、そこに生をみつけていたに違いない、しかしここは花見も理解することが難しいところであろう。花見とて体験なくしては分からない。一村さんには、彼の信ずる健康理解があつた、それは空(空腹)を理解する、空の不思議を知る体験があつたはずである。

花見にすれば、月曜日になつても体調すぐれない自分であることが、いつべんに空腹で生を見つけないことなどと、とても結びつかない。

「そりや、無理でしょうよ」となる。

「こんにち、幸い?にも腸活など、腸のことが世に知られるようになって来たと思う。これには、やはり腸のストレス・不調・ガン病が必要だったのだろうか。」

花見氏、生をみつけるの巻

第一の脳なら、生を見つけることができる!!

それで、「腸は『第二の脳』と言われることも、かなりの人が知っている。」

「えつ、腸が第二の脳なら、頭は第一の脳ということ?」
と、花見だつて考える。

「第一とか第二というなら、頭も腸

も同じ肉体として造られているということ?」

「それなら、第二の脳の腸を気持ちよくしたら、第一の脳の頭も気持ち良くなるはず…」

「生き返るし、生をみつかるってこと?」「うん?」

「第一の脳が気持ち良くなるのは、なにかが間違っているのかなあ?」
花見は、第一の脳の頭は必ずしも気持ち良くなるならんことを経験として知っている。

「ということ、第二の脳の腸はもともとの肉体だけど、頭自身は自分を第一の脳、肉体の脳とは思わないということかなあ?」

「悩みとか、自分で造って複雑に、」
そもそも「生を見つかる」って人間だけが考えることなのも知れない。
生を見つけた時は、一も二もない、それは肉体の恵みの中にある時、なのかも知れない。

(H)



小山内めぐみさんからのお便り

今回のお手紙は、「夏」のお便りだったので、紙面の関係で秋に掲載ということになりましたこととお詫び申し上げます。

お便りの中、「愚痴」と書かれているのですが、同じ経験をされている方も多くいらつしやるのではないのでしょうか。療法と治療の相矛盾する点に戸惑うこと多いと思います。矛盾は理解・反省の糸口、それを気づかせて下さった小山内さんにお礼申し上げます。(H)

今年の夏の暑さは異常ですね。梅雨寒が続いたせいか、体が慣れずに、私も熱中症一步手前となりました。急いで梅干し舐めて柿茶と水を交互に飲んで、さらにスイマグでお通じつけて、そのうちに汗がどつと出て快復、やれやれ。

汗になる水分も塩分も足りなかつ

たようです。自分の体力を決して過信せず、水分塩分ビタミンC、さらに腸の働きを鈍らせないようにスイマグ、これらの補給を怠らないのが大事だと痛感しました。

さて、以下は愚痴になります。父の検診日の8月8日のことでした。減塩や膵炎を注意した我が家の食事のせいで、ナトリウムやアミラーゼの数値は正常ながら、腎臓の機能を示すクレアチニンの数値が高く、内科医から腎臓機能の低下を指摘されました。

今、父は、慢性膵炎のための薬と、心臓に負担のないよう浮腫みを取る利尿剤を飲んでいきます。

公式ホームページに連載開始!



美しさの秘訣は、腸にあり!
イラスト作家の赤池キョウコさんが、腸活の達人ユミに体当たりで質問します。

この利尿剤服用が、内科医の言うのに、強制的に排尿させるのは雑巾ぎゅつと絞るようなもので、腎臓に負担がかかるのだとか。

でも、利尿剤をやめれば、浮腫みがひどくなつて、肺に水がたまる可能性もあり、止めるわけにはいかない。現に、父の右足の甲の部分がいつも浮腫んでいるのです。

そんなわけで、内科医の言うのに、「腎臓か、心臓か、どちらか悪くなつた時が寿命でしょうか。」と。

いやはや、こちらは毎日一生懸命食事に気を遣つて正常数値保つ努力しているのに、医者の方方した薬で腎臓悪くさせられるなんて!!!

西式なら、柿茶だろうとスイマグだろうと生野菜療法だろうと、体中全部良くなつて悪くなるなんてことはない。これこそが薬であつて、他の臓器を傷める薬剤を薬と認識する現代医学なんて根本的に誤つてるとしか言いようがありません!!!

(3面上段)

(2面下段より)

かつて。両親健在で、一切医者にかかわることなく、生野菜を家中で美味しく味わっていた日々の何と幸せだったことでしょうか。西式生活していれば万全なんだと信じ切っていたら、頃の何と充実していたことでしょうか。今、全く信用ならない現代医学の医者に関わらざるを得ない現状の何と不幸なことでしょうか。

そう言えば、『西式健康法』(2019・6)に、大阪で開催されたという司教会大会の講演内容が掲載されていました。

そこで、伏見育子という人が西式による治療体験を語っておられましたが、三重の健康医学研究所では、こうした西式による治療が実践されているのですね。羨ましい限りです。

さらに、この研究所には西先生の蔵書300冊以上が展示されていて、来訪者は手に取って閲覧できる、いづか私もここで、西先生の頭の栄養

となつた書籍を拝みたいと思ひました。

93歳の父は、毛管運動すら一人じゃやりません。足を上げるのも大変らしいし、私たちが運動させても、すぐ疲れたと言つて止めさせます。かつて、誰にでも西式を自ら説いていた人なのですが、つくづく思ひます。自ら西式実践できなくなる前に、ポツクリあの世に逝きたいと。絶対、現代医学には関わりたくない……。

愚痴が長くなつてすみません。親の介護に際し、現状日本社会では現代医学と無縁では済みません。生きづらい世の中です。あとは、父の生命力次第ということになりましようか。いや、これは、誰にとつてもおなじですね。

小山内めぐみ

Beautiful Belly - Beautiful Life

腸活には青汁、
マイナス腸活には
スイマグ・エース

お葉書から

足助さんもそうですが、夏の発汗の手当をされて、そういうことが当たり前にできるってすごいと思ひます。何でもないことのようにですが、その手当の一つが、予防につながっていると思ひます。(H)



身中、心も支えられ...
—癒しと世に。

8月31日。足助重紀
自然治癒の554年方。秋の気配を感じながら
北地を歩いた。「三保道行」といふ古書
に記してあり、その二つを
此の頁は、文字通り「お言葉」を惜みず
に、重風邪の治癒と体験を記した。
どうも夏を越えられたことと、お話しした頃、珍しく
高熱が出た。「水分、塩分、VCの補給」を
心がけ、一甲中 就寝して治りました。翌日の
朝は下痢が止まり、三日目の朝にはほぼ平癒に。
この二つが、お言葉の554年方に、目撃したお言葉
と、自然治癒の554年方に、目撃したお言葉
心強く「三保道行」と書かれたお言葉

満喜の「喜びと感謝と」

看護師 若松満喜

選択する勇氣



3月に産まれた双子の娘たちは、元気にすくすく大きくなり半年がたちました。寝返りし、足の力を使つて少しづつ前に後ろに進んでいます。周りに興味津々で手あたり次第、手につかむものを舐めて感覚を確かめているようです。笑ったり泣いたり毎日があつという間に過ぎますが、日々平穩に過ぎてゆくことが当たり前でないことを、台風が過ぎ去り改めて感じます。

10月に入り、次男が水疱瘡になりました。子どもを病院に連れていくと必ず聞かれるのが予防接種です。受けていないと返答すると、大抵あまりいい反応はありません。予防接種とは、ワクチンのことで、病気を起こすウイルスや細菌、また細菌が

つくり出す毒素の病原性を弱めてつくり出された薬剤です。注射などで体内に送り込み、健康な人をあえて病気にかけた状態にして、人工的に「免疫」をつくろうというものです。現在①ヒブ（注・ヒブⅡインフルエンザ菌b型）②小児用肺炎球菌③B型肝炎④四種混合1期⑤BCG⑥麻疹風疹1期⑦水痘⑧日本脳炎1期⑨麻疹風疹2期とたくさん種類があり、その数はどんどん増えているようです。

私は、長女には3種類の予防接種を受けさせましたが、色々悩んだ末、長男以降は一つも受けさせていません。今回双子にも保健センターから、予防接種予診票が束になって届いていますが、今のところ受ける予定はありません。

はっぴいえんじ
なうなうはっし
社長ブログ
公式ホームページに新連載！
スマグをつくり続けて60余年。
三保製薬社長の花澤が、三保通信
で語りきれない思いを綴ります。

私が予防接種を受けさせていない理由は、副作用と思われる、ギランバレー症候群（感染やワクチン接種などをきっかけにして発症する神経疾患。手足が痺れ力が入らなくなる、時に呼吸機能にも影響する病気）で車いす生活をしている人に出会ったことがきっかけです。こんなにたくさんさんのワクチンを小さな子どもに入れてもいいのだろうかと疑問を持ち、ワクチンの歴史や病気の変遷、添加物やワクチン産業の背景などの情報も少しづつですが得る中で、病気を予防するためには、予防接種よりもまず、病気にならない体づくりに力を入れたいと思ったからです。また、衛生環境が改善されていない国で生活するなど必要と感じる場面がでてきた時に、必要なワクチンを選択して接種する方法もあるのではないかと考えているからです。私自身、インフルエンザ予防接種をした年だけインフルエンザ（5面上段へ）

(4面下段より)

に罹患した経験もあります。同じく
らいの子どもを育てるお母さんたち
の中では、「打たないという選択肢が
あるのか!」とびつくりされること
もあります。定期接種は、国が感染
症対策として接種をすすめていて公
費で賄われるもので、義務ではなく
勧奨です。強制ではなく、それぞれ
の事情と判断で受けても受けなく
もいいものです。メリットとデメリ
ットを考慮し、それぞれの親が判断
し、選択すればよいのだと思います。
私も、「未熟児で産まれたし重症化
しやすいよ」、「何かあった時にど
うするの?」と言われると、この選択
が正しいかと自問自答です。主人
と相談しても、最終的には私の判断
に委ねられる部分です。母親が赤
ちゃんにプレゼントした免疫力は、半
年程度でなくなります。



マイナス腸活ブログ
なぜ便秘は万病の元なのか?
美と健康の真実とは?
<https://minus-chokaz.jp>

でも、もしかしたら、、、は考え始
めるときりがありません。かわい
子には旅をさせると言われますが、
命に関わらない程度なら、例えば今
回の水疱瘡でも、自分でかかつて自
然免疫をつけてくれてよかったと思
っています。(人工的な免疫より自然
感染によりつくられた免疫の方が長
く保つそうです。)赤ちゃんは、色
なものを舐めて、腸を強くし、免疫
力をつけていることから、人間に
はちゃんと抵抗する力が備えられて
いるのだと思います。大人になつて
も、免疫力を高める自分なりの「マ
イナス腸活」で、生き生きと生活し
たいものです。自分なり、が長く続
ける秘訣かと思っています。
予防接種に限らず、日々自分が選
択した事に責任を持つ勇氣が必要
ですが、そこが人生の楽しさであり奥
深さでもあるのかなと感じる今日こ
の頃です。



領収証のお取り扱いに関する重要なお知らせ

| お支払い方法 | 領 収 証 |
|-----------------------------|---|
| ゆうちょ銀行 (前払い・後払い) | ご利用明細票 (ATMでお支払いの場合) 払込票兼受領証 (窓口でお支払いの場合) |
| ゆうちょダイレクト (インターネットバンキング) | 「送金結果画面」のプリントアウト ※送金結果画面の表示期間は半年となりますのでお気をつけください。 |
| クレジットカード | ご利用明細票 (クレジット会社発行) |
| コンビニ後払い | 振込受領証 (領収証) ※コンビニエンスストアでのお支払い時、ハガキへ受領印が押されますので、そちらが 領収証となります。 |
| 代 金 引 換 | 代金引換領収証 (お荷物添付の送り状右下部分が領収証となっております。) |

弊社の商品代金の領収証は、お支払い方法ごと
に、次のものを領収証としてご利用ください。
**いずれの領収証も「医療費控除」の申請にご利用
いただけます。**
ご注文頂いたお名前が領収証の宛名となります
ので、ご希望の宛名でご注文ください。

弊社仕様の領収証発行は、お支払い方法が「現金」の場合に限らせて頂きます。
領収証の再発行はいたし兼ねますので、大切に保管をお願い致します。

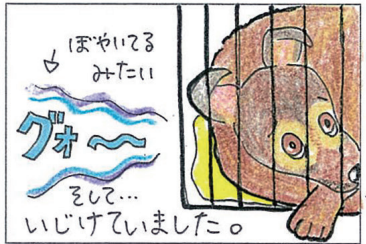
あなたのおなかに通じます

和歌山市の伊東和子さんからお手紙を頂きお許しにより掲載させて頂き

ました。「いっお迎えが来るかわかりません、その日迄生きなければと思っています」。書かれている文章からは、ご自分への励みと、むしろ励まして頂いているように思いました。(H)

暑さ寒さも彼岸までと昔から言われるように吹く風が涼しく感じる季節となりました。お願いした通り三保通信届いて居ります、有難うございます、読ませて頂いて居ります。私も体が弱かったので姉むこが西

赤ちゃんと茶の朗



それにしても赤ちゃんって何かわわいいのでしょう♡またいつまでもお手預かりしま〜す♡ ymみごん

あとがき
若松満喜さんの「選択する勇氣」に感銘しました。同じ乳児を育てる母親として、無考の育児“になつてはいまいか。子どもの命に対して最終的に責任を持つのは親であり、国や周囲の人々が責任を取ってくれる訳ではないということを、改めて示された思いでした。(Y)

式で、進めてくれまして、江口先生が和歌山へ一ヶ月に一度来られ診てもらっていました。何せ午後二時になると、7度2分の微熱が出て四時半頃引く毎日でした。先生は、あれもせー、これもせーでは結局失敗するから裸療法一本で行こうとおっしゃって始めました。一ヶ月は絶対休まずに、休んだら、そこで終つてしまふ。一生懸命やりました、朝晩やつたと思います。
一ヶ月たつて、三日休んで又三ヶ月に向つて始めたのです。そのうち、熱が三日に一日になりとうとう出なくなつてしまいました。五十五才の時、日赤で肺門リンパ腺したね、形

が残っているよと言われ、肺が悪かつたんやなと思いましたが、今は形もなくなっているそうです。それからも真冬はようしません、松本博士さんのように寝て、上ブトンをおぶせたり、はがしたりする時もあります。
最初、クリマグを飲んでいました。そのうちミルマグになり、今はスイマグですね。やっぱり飲まんと便通がね助かっています。柿茶からビタミンCとやかましく言われましたので今でも実行しています。
この十月で九十一才です、自分でもびつくりしている次第です、一重に、西式のお蔭かと思つています。